

支え合う 地域づくりに向けて

～「新地域支援事業」推進検討会報告

新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）は移行期間を終え、全ての市町村において実施されていますが、老人クラブの取り組みはどういう状況でしょうか。そこで、事業を実施または参加している市町村老連のリーダーにお集まりいただき、現状をお話しいただく検討会を2月13日に開催しました。本号ではその概要をご報告します。

なお、参加いただいた4名の老連における新地域支援事業への参加状況は、5ページから掲載しています。

参加メンバー

- 加藤 正秋 栃木県 高根沢町シニアクラブ（連合会）事務局長
- 藤田 照子 奈良県 生駒市老人クラブ連合会女性部会長
- 今崎 仙也 広島県 呉市老人クラブ連合会常任理事
- 野口興一郎 福岡県 岡垣町寿連合会会長
- 齊藤 秀樹 全国老人クラブ連合会常務理事



後列左は齊藤全老連常務理事

事業に参加したきっかけ

齊藤 みなさんが新地域支援事業に参加したきっかけはどういうことですか？

加藤 平成27年3月に第一層協議体となる「生活支援協議会」が設置されて、高根沢町シニアクラブを代表してメンバーとなりました。そこで示された「地域包括ケアシステムの姿」（厚生労働省作成）に、生活支援・介護予防の担い手として、老人クラブとあるのを知り、行政からも期待されていたことから、積極的に関わる必要があると思いました。

藤田 生駒市老連は27年から友愛活動に力を入れており、「活動を通じて『新地域支援事業』に参加したい」と、担当の市地域包括ケア推進課に会長と挨拶に行きました。その後、情報交換の中で、行政が「いきいき百歳体操」の普及を望んでいることがわかり、「老連が協力したら市内全域に浸透できるのではないか」と提案して、「いきいき百歳体操サポーター養成講座」と「地域ボランティア養成講座」を協働で企画し、会員に参加を呼びかけています。

友愛活動との関連では、「地域ボランティア養成講座」で、ボランティアとしての心構えや認知症の方への対応など、地域活

いのマップを作成する予定です。

助け合う仕組みづくり

齊藤 多くの高齢者が参加できる健康づくりプログラム（一般介護予防）は以前から老人クラブでも実施され、体操や体力測定、ウォーキングなどは、比較的抵抗なく取り組める事業です。一方、日常の困りごとに対して、隣近所の人たちが助け合う仕組みを作っていくことはどこまで可能なのでしょうか。

野口 対象者をどうするかが一つの課題です。会員同士であれば様子もわかり、手助けできますが、要介護、要支援の方はどこにいるのか見えない。これから認知症の方が増えてくるともつと難しくなると思います。

藤田 高齢者夫婦世帯など、高齢者が高齢者を介護しているところが増えていますが、新興住宅地で日頃付き合えない方の情報はわからないです。

今崎 私のところは高齢化率60%以上の島です。クラブでウォーキングやグラウンドゴルフを行っています。そこに参加できない人にはサロンへの参加を呼びかけて、ある程度は健康づくり・見守り活動が自然に出来ていると思います。

また、「支え合いホームヘルプサービス事



野口氏（福岡県 岡垣町）

動に必要な知識を学びますが、市老連にはこうしたリーダーが今までいませんでした。また、市老連独自にサロンについて理解を深め、具体的な運営の仕方を学ぶ「サロンリーダー研修」も開催しています。

今崎 呉市老連は早いうちからこの事業に関心をもっており、平成27年から講師を呼んで学習したり、行政とは暮らし支え合いの先進地である神戸市老連と一緒に視察に行き、話し合いを重ねてきました。今年度から「支え合いホームヘルプサービス事業」に取り組んでいます。

野口 岡垣町では、介護予防を実践・普及す

る組織を探していた行政に、長年、健康づくり・介護予防活動に取り組んできた町寿連から「相談しながら仕組みを考えましょう」と提案したことがきっかけで、「健康長寿同好会」に取り組むことになりました。

協議体の役割

齊藤 この事業を推進するため、組織・団体が集まる「協議体」は、対等の立場で地域の状況を話し合う場です。そこに暮らす住民が納得して主体的に参加してもらうために、みなさんのところではどのような取り組みをしていますか。

加藤 本29年度は生活支援協議会により「支え合う地域づくり」の第二層協議体（中学校区域）を設立するための「地域づくり勉強会」を3回開催して、困りごとのアンケート実施や「助け合い疑似体験ゲーム」等を行いました。最終的には、地域でできること、行政がすることについて話し合う予定です。

今崎 私が住んでいる呉市・御手洗自治会区では、現在、第三層協議体の立ち上げに向けて市社協など関係機関と一緒に準備しています。次回3回目の会議では、日常生活の困りごと、防災、認知症の三つに対応する助け合



今崎氏 (広島県 呉市)

「自治会等に伝わり、綿密に話ができるようになりました。少しでも頼りにされる老人クラブであることが大切だと思います。」

野口 組織力。多くの方が「健康長寿同好会」に参加、協力してくれ、健康づくりが大事だと言いつけてきたことが単位クラブに浸透してきたと感じています。今後は「健康長寿同好会」を、より身近で多くの人が参加できる場所に作っていきたくと思っています。組織で動くのが老人クラブの強みです。また、毎年行っている町長との懇談会では、町寿連の課題だけでなく、町の高齢者対策についても話し合っています。こうした取り組みも大



加藤氏 (栃木県 高根沢町)

「業」は、地区7クラブのうち私のクラブを含めて2クラブが準備中です。対象となる一人暮らしと高齢者世帯約30名の内、支援が必要な人は10名位です。依頼で多いのは見守りですが、最近はゴミ出しが増えています。現在は友愛活動の延長線に対応していますが、第三層協議体が立ち上がったなら、自治会や民生委員を交えて地域全体で取り組みたいと考えています。

齊藤 取り組みは、呉市全体に広がりそうですか。

今崎 広がると思います。当初、市老連によるアンケートでは「実施できそう」と回答のあった地区老連は25中15地区。現在実施しているのは3地区、19クラブですが、準備中のところもあります。また、市行政主催の日常生活支援活動支援員研修会では、120名の会員が研修に参加しています。

できるところから取り組み、その成果・状況を周知することにより、呉市全体に広がることを確信しています。

加藤 町で実施した困りごとのアンケートでは、ゴミ出しや買い物など日常生活のちょっとしたお手伝いが必要とされています。クラブが中心になって取り組もうと思っていますが、実際にはまだ取り組んでいません。

齊藤 担い手はどうですか。

事業を進める上で大切なこと

齊藤 事業に取り組まれた中で、大切だと感じられたことはどんなことですか。

加藤 日中家において、地域のことも知っているシニアクラブが生活支援の担い手になると伝えていきます。しかし、56地区のうち28地区にクラブがない状態なので、区長研修会などに出向いて設立をお願いしています。加えて、毎年、町長がクラブのない区長に対して、設立を依頼する手紙を出してくれています。

切だと考えています。

老人クラブの取り組みを広げよう

齊藤 新地域支援事業は、一人暮らしや病弱の方々はその地域で暮らし続けられるよう

各老連の新地域支援事業に関する状況

栃木県高根沢町

26クラブ、会員720名
人口2万9766名(高齢化率23.6%)
新地域支援事業移行…平成28年

【協議体について】

・27年に第一層協議体「生活支援協議会」が発足、町シニアクラブ(連合会)事務局長が参加

・構成団体は社会福祉協議会、民生委員、地域包括支援センター、シルバー人材センター、介護事業所、地縁組織等の代表者
・協議会を核に、住民が求める助け合い活動を企画し、担い手養成をバックアップ。「新しい地域支援事業のあり方を考えるフォーラム」「地域づくり勉強会」(29年度3回)

の開催

【新地域支援事業の取り組み】

①協議会が開催するフォーラムや勉強会へ参加呼びかけ。多数の会員が参加している
②友愛活動を通じて、高齢者の暮らし



フォーラムでのパネリストによる意見発表

加藤 行政との連携です。シニアクラブの会員は日中地域に居ることから、支え合いだけでなく、防災時の担い手としても考えており、行政も力を入れてくれます。

藤田 行政と地域包括支援センターと老人クラブの連携です。地域包括支援センターが介護予防教室を広めるのに協力してきた10年の実績、それと新地域支援事業に参加するという組織の方針を会員だけでなく、行政に示したことが信頼につながっています。

今崎 活動の成果・情報を関係者に伝えることです。新地域支援事業を通じて老人クラブの情報が行政・市社協・地域包括支援センタ



藤田氏 (奈良県 生駒市)

に、それぞれの地域にあった形で広がる必要があると皆さんのお話を伺って感じました。始まったばかりで試行錯誤しながらですが、老人クラブも様々な取り組みを展開して、多くの高齢者に参加いただけるようにしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

しの困りごとを把握

【関連する連合会の取り組み】

- ・協議会開催事業で、シニアクラブへの理解と必要性、参加を訴えた
- ・総会や女性部会を中心に、新地域支援事業への理解を繰り返し呼びかけ
- ・一人暮らしの高齢者一斉訪問（年2回）を日常的な見守りにつなげていく呼びかけ

ボランティア養成講座



奈良県生駒市
53クラブ、会員4917名

人口12万0562名（高齢化率27・0%）

新地域支援事業への移行…平成27年
【協議体について】
・27年に第一層協議体が発足、市老連女性部長が参加
・構成団体は、社会福祉協議会、民生委員、地域包括支

援センター（受託法人、介護支援専門員）、地域支援事業受託事業者、居宅介護支援事業者協会、介護者家族の会、医師会、健康づくり推進員（市委嘱）、学識経験者、一般公募
・第二層を現在準備中

【新地域支援事業の取り組み】

市地域包括ケア推進課との情報交換を通じて、支え合い活動の活性化に向けたリーダー養成を行うための事業を協働で企画、会員への参加を呼びかけ

①「地域ボランティア養成講座」（一般介護予防事業）全4回/延べ298名

これまで市民向けに開催したが、29年度は老人クラブ会員対象に開催

②「いきいき百歳体操」サポーター養成講座（一般介護予防事業）2日間、全4回/延べ58名

サポーターはクラブや自治会等に働きかけて実践、普及に努める

【関連する連合会の取り組み】

・「サロンリーダー養成講座」（4日間、延べ184名）
・上記①②を含む三つの「養成講座」受講者を「いきいきサポーター」と称して、修了者（148名）を対象に、「いきいきサポーターの集い」（58名）開催

実施

福岡県岡垣町

40クラブ、会員2065名

人口3万1962名（高齢化率32・1%）

新地域支援事業への移行…平成28年

【協議体への参加】

・28年に「岡垣町地域包括ケアシステム推進

広島県呉市
209クラブ、会員10、948名

人口22万9868名（高齢化率34・3%）

新地域支援事業への移行…平成29年

【協議体への参加】

・27年に第一層協議体が発足、市老連会長が参加

構成団体は、社会福祉協議会（市、地区）、民生委員、地域包括支援センター、シルバー人材センター、NPO法人、介護サービス事業所、有識者、生活支援コーディネー

〇〇〇自治会にお住まいの高齢者・障がいをお持ちの方
生活のちょっとした困りごとをお手伝いします！

日常生活の中で、少しでも手伝ってもらえたら助かるなあとことはありませんか？
そんなときは、お気軽にご相談ください！

| | | | |
|---------------|-----------------|------------------|----------------|
| 話し相手 〇〇円/回 | ゴミ出し 〇〇円/回 | 不要品の処分 〇〇円/回 | 家具の移動 〇〇円/回 |
| 大工仕事 〇〇円/回 | 庭木の手入れ 〇〇円/回 | 外出の付き添い 〇〇円/回 | その他 ご相談ください |

※お手伝いの内容や利用料金など、詳しいことはお問い合わせください。
（材料費等の費用がかかる場合はご依頼者の負担となります。）

PR チラシサンプルより

ター、行政
・第二層は現在8地区、第三層は14か所で立ち上げ

【新地域支援事業の取り組み】
①「支え合いホームヘルプサービス」の実施（介護予防生活支援サービス事業）
要支援認定者や支援が必要な人に対して、予め登録した支援員（会員）が、話し相手やゴミ出し、草取り、買い物などの日常生活支援を行う事業。活動内容や利用料金は実施主体の地区老連が決定。29年度は3地区老連で実施、支援員は74名。具体的な活動はこれからになる

②「健康づくり教室」の実施（一般介護予防事業/市老連委託事業）
単位クラブで年2回以上実施すると助成（28年度は112クラブ実施）
③「ふれあい・いきいきサロン」の実施（一般介護予防事業）
社協が実施する事業に単位クラブが参加。実施頻度や参加人数に応じて助成がある

【関連する連合会の取り組み】
・広島県老連より「高齢者相互支援推進事業」の指定を受け、市内3地区でリーダー養成と独居高齢者世帯を対象にした安否確認、話し相手、日常生活支援等の訪問活動を



介護予防サポーターの面々

会議」を第一層協議体と位置づけ、町寿連から副会長が参加
構成団体は、社会福祉協議会、民生委員、高齢者相談センター、在宅総合支援センター、高齢者福祉サービス提供者、医師、歯科医師、リハビリテーション専門職、自治区長、ボランティア関係者、町民代表
・第二層、三層の立ち上げに向けて住民、社会福祉協議会、町が一緒になって支え合いや助け合いについて語り合う「話し合いの場」開催（29年6回）

【新地域支援事業の取り組み】
○「健康長寿同好会」の開催（介護予防・日常生活支援総合事業/委託事業）
町が養成した介護予防サポーターによる体操指導（月3回、3か所で開催）
実践例：脳トレ、ストレッチ体操、筋力トレーニング、ヨガニサイズ等の実施（1回：1時間20分）
※介護予防サポーター57名（内会員51名）

【関連する連合会の取り組み】
・24年から地元業者と提携して、生鮮品や日用品などの移動販売事業を週2回、町内5か所で実施
・町寿連大会およびスポーツ大会において「健康講演会」を実施（年2回、参加者各800名）